

古城の森のアクティビティ(遊び)と香南の食を満喫できるゾーンを目指して

三宝山最終のイメージ



360°パノラマストレッチZONE (有料・一部無料)

- 子どもから大人まで楽しめるコース設定
- 企業研修・学校教育にも活用 (プログラム構築)
- インストラクター配置
- トイレ、休憩所整備
- 一部市民参加による手作り

教育

駐車場A・B

- 駐車場Bはイベントスペースとしても活用可
- ロッジ (or コンテナホテル) & 温浴施設は第2段階で

イベントZONE

- クラフトビレッジ、オーガニックマーケット、BBQテラス、キャンプイベント、地元野菜等の産直マルシェ等に活用
- 市民の参加・活用

食と農

地産地消 Café&Restaurant ZONE

- 城の中か、城の周りに設置 ○物販 (加工品販売)

食と農

シャトー三宝山の活用

- 地産地消Café & Restaurant, eventスペース
- (屋上) 展望施設、ギャラリー
- プロジェクションマッピング

目指す入込客数は年間10万人以上

三宝山の周辺にある観光施設との連携施設名	H27年入込客数
★高知県立のいち動物公園	約16万人
★アクトランド	約9万人
★龍河洞	約11万人

三宝山の近くに10万人を超える観光体験施設があり、ターゲット、コンセプトなどを共有し展開することで、相乗効果を発揮

入込客数年間10万人の想定

【内訳】	
★アスレチック施設	約2万2千人
★行事・イベント	約4万4千人
★県内の遠足・修学旅行	約2万8千人
★他...etc	

シャトー三宝山(西洋風のお城)の可能性と基本計画づくりへ

平成28年度の計画として、まずは、シャトー三宝山の耐震診断を行います。この診断を行うことで、改修費用の概算が判明するため、城の活用についてさらに掘り下げて議論ができるようになります。次に、秋頃までに運営に賛同いただける企業等を含めた基本計画策定委員会を立ち上げ、基本計画を策定する予定です。また、基本計画策定時には、市民参画についても具体的に議論していくこととしていますので、市民の皆さんが関われる仕組みづくりを考えていきます。

第4弾 香南市三宝山観光拠点化基本計画

テーマ ～さあ、天空のお城の物語はじまりです～

「花とハーブ園」:「香南まるごと市場」〈観光物産館〉

- 「観光物産館」を観光拠点の核として、高知県内の特産品や観光案内の情報発信ができる。
- 「観光商品の磨きあげ」等を図り、多くの集客を目指す。
- お城と周辺は、多様な目的に利用可能な広場にする。
- 「花とハーブ園」は、地域の特産品の開発等を推進するため、イメージアップを図る。

【1案】



「ブライダル城」:「お城+熟成」〈地域振興の拠点〉

- 「ブライダル」を事業の中心とするが、お城(古城)=(熟成)のイメージから、お城を熟成蔵としての機能を持たせ地域産業振興の核とする。(ブライダルは、結婚のみでなく、多様な交流と、その深い結びつきにより、「地域に根付く」という意味合いを持たせる。)
- 結婚式、披露宴、合コン、パーティー、子どもの食育体験施設等の機能を持たせる。

【2案】



「花と果樹園」:「香南体験ファーム」〈教育ファーム・出逢い〉

- 「レストラン・ショップ」は地域の方たちが運営し、地域の特産品を持った施設とする。
- 「花と果樹園」は、地域の特産品でもある果物を、紹介・体験等ができるものとする。また、特産品のニラトマト・ラッキョウ・ジンジャー等の畑を設け、子どもたちの体験ファームとして利用可能なものとする。
- 事業費をかけず、維持・管理しやすい施設とする。

【3案】



3案の構想を更に磨き上げ! 持続可能で採算性のあるものに

第2弾で作り上げた構想を更に磨き上げ、持続可能で、採算性のある観光拠点化施設にするため、県内外から専門家を招致して平成27年7月1日から平成28年3月18日の期間、「香南市三宝山観光拠点化基本構想磨き上げ検討委員会」を6回開催し検討しました。

【第2弾基本構想3案における課題・改善点】

- 三宝山の強みが活かしているか/眺望(+お城=市民・県民のシンボル)
- 三宝山の弱みが克服されているか/アクセスの悪さ、わざわざ行くための目玉
- お城のイメージに固執しすぎていないか
- この場所になければならない施設か
- 集客が見込めるか

ハーブ園や体験ファームが三宝山で本当に必要なのだろうか? お城を活用できるのか?

第3弾 香南市三宝山観光拠点化基本構想磨き上げ

【目的】…香南市三宝山観光拠点化基本構想の磨き上げを行うため、施設整備や運営方針の方向性を位置づける基本計画のたたき台を検討する。
【エリア】…三宝山を中心として、高知県立のいち動物公園、アクトランド、龍河洞を三宝山周辺エリアと捉えて、アンパンマンミュージアム、絵金蔵、ヤ・シイパークなど周辺施設との連携も見据え、施設のあり方を検討する。

- コンセプト 新たな体験型ツーリズムの構築と周辺観光施設との連携
- キーワード 三宝山の強みを活かす ★存在感のあるお城+眺望
三宝山の弱みを克服する ★アクセスの悪さ=わざわざ行く目玉が必要
- ポイント ①わざわざ行くための目玉施設(集客施設)
②お城の利活用(モニュメント化or一部使用or全面的に使用)
③周辺観光施設からの誘客
④営利・非営利のバランス=公設+民設=運営コストを抑える
⑤市民との協働、市民に愛される施設へ(寄附・公募債・運営への参画)